

学習目標

細胞・組織・器官といった生体を構成するパーツの形態学的な特徴を学び、また、細胞・その他の諸構造の分子的な特徴や、巨視的にとらえ得る生体機能と“形態”とが密接に関連していることを理解する。

■教科書：組織学・口腔組織学 第3版 (わかば出版)

「生体組織実習ガイド」に講義関係資料の綴じ込みがある。
教科書と併用するプリントを追加配付することがある。

■参考書：はじめの一步の生化学・分子生物学 第2版 (羊土社)

この他にも、講義中に関連する成書等を適宜紹介する。

■授業時間：金曜日 11:00～11:50 および 13:00～13:50。合計 26 回

■オフィスアワー：磯川桂太郎 (解剖Ⅱ) 月曜日 8:00～9:00

■成績評価：前期試験を含む都合 3 回の試験をほぼ均等に評価・判定する。
受講態度を加味する。

■注意事項：● 講義日程は、生体組織実習と関連づけて組まれている。

● 講義には、実習ガイドも持参すること。

● 5月20日(金)と6月17日(金)の中間試験は9:00～9:50に実施する。

■準備学習：事前にシラバス記載の講義項目と到達目標に目を通し、講義後は当日のうちに自らのノートやメモを確認し、理解できなかった点を明確にして、教科書を読んでその解決を図ること。

授業日・担当者	講義項目	学習到達目標
第1回4月15日 11:00～11:50 磯川桂太郎	1. ガイダンス 2. 上皮組織と腺 (教) pp. 35-52	<ul style="list-style-type: none"> 組織学の学問的位置づけと取り扱い範囲を知り、何を、どのような教材でどのような姿勢で学ぶべきであるのかを理解する。 上皮の形態学的分類と機能的分類、腺の概念と分類を学ぶ。
第2回4月15日 13:00～13:50 磯川桂太郎	3. 結合組織と筋・神経 (教) pp. 59-67	<ul style="list-style-type: none"> 結合組織にみられる主な細胞の形態学的特徴と機能的な役割を学ぶ。 結合組織の分類、骨、軟骨など支持組織の概念やこれらを構成する細胞を学ぶ。
第3回4月22日 11:00～11:50 磯川桂太郎	4. 細胞骨格 (教) pp. 20-29 (参) pp. 22-26 5. 細胞間結合 (教) pp. 15-19 (参) pp. 27-32	<ul style="list-style-type: none"> 細胞骨格と呼ばれる細胞内構造とその分子構成・特徴を学ぶ。 細胞骨格が細胞の形態・極性の保持や細胞運動で果たす役割を理解する。 細胞膜の構成分子の基本的な役割を学ぶ。 細胞間および細胞-基質間の結合装置の構造

授業日・担当者	講義項目	学習到達目標
		<p>と構成分子を整理・理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 結合装置の分布と機能的役割, 接着分子の種類や特異性について学ぶ。
第4回4月22日 13:00~13:50 磯川桂太郎	6. 細胞外線維 (教) pp. 68-72	<ul style="list-style-type: none"> 細胞外の線維系の形態学的特徴や役割, 分子構成を学ぶ。 collagen 分子がどのように膠原原線維や基底膜を形づくるのかを学ぶ。
第5回5月6日 11:00~11:50 磯川桂太郎	7. 細胞外マトリックス (教) pp. 68-72, 83-89	<ul style="list-style-type: none"> 細胞外基質成分を概観し, 主な分子について整理・理解する。 生体内に存在する軟骨組織の種類や分布, 役割, 成長様式を知る。 proteoglycan の分子構造と, 軟骨の組織学的な特徴や機能との関連を学ぶ。
第6回5月6日 13:00~13:50 磯川桂太郎	8. 血液と血球 (教) pp. 73-81	<ul style="list-style-type: none"> 結合組織という観点から末血を理解し, その細胞成分(血球)の種類, 形態学的特徴, 臨床検査的な基本的事項を学ぶ。 造血と造血組織の基本的事項を学ぶ。
第7回5月13日 11:00~11:50 磯川桂太郎	9. 骨組織 (教) pp. 86-87, 91-107	<ul style="list-style-type: none"> 骨の形態, とくに長管骨形態のマクロ的な特徴と関連する種々の名称を整理し, これらと緻密骨の基本的な組織構造とを関連づけて理解する。 骨組織の細胞成分の組織学的特徴と機能的役割を学ぶ。 血中の Ca^{2+} やリン濃度の恒常性維持における骨の細胞成分の役割を知り, 骨が単なる構造的な支柱でないことを理解する。 骨代謝に関わるホルモン等の働きと産生細胞とを整理・理解する。
第8回5月13日 13:00~13:50 磯川桂太郎	10. 筋の微細構造 (教) pp. 111-124, 133-135 (参) pp. 70-73	<ul style="list-style-type: none"> 骨格筋・心筋の横紋が細胞内のどのような微細構造に起因しているのかを学ぶ。 運動終板を介して筋細胞へ到達した刺激により, actomyosin 系に基づく筋収縮が生じる機構を理解する。
第9回5月20日 9:00~9:50 磯川桂太郎	第1回中間試験	<ul style="list-style-type: none"> 第1~8回の講義を範囲とする筆答試験を行う。詳細は別途通知する。 この試験は第1時限(9:00~)に実施し, 第3時限(11:00~)は「人体の生理機能」に振り替える。

授業日・担当者	講義項目	学習到達目標
第10回5月20日 13:00～13:50 磯川桂太郎	11. 皮膚と粘膜 (教) pp. 35-47, 57 325-331	<ul style="list-style-type: none"> 重層扁平上皮を構成する細胞層の組織学的な特徴を学ぶ。 口唇の皮膚と粘膜(裏層粘膜)の組織構造を比較し, その特徴と差異を理解する。 皮膚付属器である皮脂腺, 立毛筋, 毛, 汗腺(エクリン型・アポクリン型), 爪などの存在部位と組織学的特徴を学ぶ。
第11回5月27日 11:00～11:50 白土昌之	12. 舌乳頭と味蕾 (教) pp. 345-349	<ul style="list-style-type: none"> 舌乳頭の種類と形態学的な特徴と分布を学ぶ。 味蕾と舌腺の組織学的特徴と舌乳頭との関係を理解する。
第12回5月27日 13:00～13:50 磯川桂太郎	13. 消化管の基本構造 (教) pp. 159-160	<ul style="list-style-type: none"> 消化管の基本構造を学び, 管壁各層の区分と特徴が説明できるようにする。 壁内腺の概念と組織学的特徴を学ぶ。 筋層と壁内神経叢の位置・機能的関係を学び, 筋層の支配神経について学ぶ。
第13回6月3日 11:00～11:50 白土昌之	14. 口腔腺 (教) pp. 52-54, 353-362	<ul style="list-style-type: none"> 口腔腺という観点から唾液腺の種別や存在部位を整理し, 分泌物の性状による唾液腺の分類を学ぶ。 大唾液腺について, 腺体の組織学的特徴, 導管系の分類と特徴, 開口部を学び, その相違を整理・理解する。
第14回6月3日 13:00～13:50 磯川桂太郎	15. 腺組織と胃 (教) pp. 52-56, 160-164	<ul style="list-style-type: none"> 胃壁および胃腺の構造と, 胃腺を構成する細胞の組織学的な特徴と機能を学ぶ。 胃酸の分泌を, その制御因子および細胞内分泌細管のダイナミクスという2つの観点から理解する。
第15回6月10日 11:00～11:50 白土昌之	16. 肝臓 (教) pp. 168-172	<ul style="list-style-type: none"> 肝臓の小葉構造を形態学的な面と機能的な面から理解する。 小葉内の細胞について, その組織学的特徴を肝機能と関連づけて学ぶ。 肝臓内の血流と胆汁の分泌経路を正しい術語を使って説明できるようにする。
第16回6月10日 13:00～13:50 白土昌之	17. 膵臓 (教) pp. 172-175 (参) pp. 121-125	<ul style="list-style-type: none"> 膵臓外分泌部の組織像を学び, 分泌物の性状と組織構造との関連性を学ぶ。 消化酵素の種類, 分泌制御に関わる細胞・ホルモン等を整理・理解する。 シグナルペプチドによるタンパク質の sorting のメカニズムを学ぶ。

授業日・担当者	講義項目	学習到達目標
第17回6月17日 9:00~9:50 磯川桂太郎 白土昌之	第2回中間試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第10~16回の講義を範囲とする筆答試験を行う。詳細は別途通知する。 ・ 本試験は第1時限(9:00~)に実施され、第3時限(11:00~)は「人体の生理機能」に振り替えとなる。
第18回6月17日 13:00~13:50 磯川桂太郎	18. 腸管の部位差 (教) pp. 164-168	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輪状ヒダ、腸絨毛、微絨毛の相違と役割を知り、腸管粘膜の部位差と消化吸収機能との関連を理解する。 ・ 腸腺(Lieberkühn 腺)と十二指腸腺(Brunner 腺)の組織学的特徴を知る。 ・ 腸管上皮のライフサイクルを知り、上皮層を構成する細胞種を整理する。 ・ 腸管壁でみられるリンパ性組織の特徴と機能的な役割を学ぶ。
第19回6月24日 11:00~11:50 磯川桂太郎	19. 血管壁の構造 (教) pp. 119-124, 151-157	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毛細血管の構造と機能の関連を学ぶ。 ・ 動脈(筋型/弾性型)壁と静脈壁の構造を機能と関連づけて理解する。 ・ 心筋の特性とともに、冠動脈、ペースメーカー、刺激伝導系といった構造の組織像と機能的役割を学ぶ。
第20回6月24日 13:00~13:50 白土昌之	20. 内分泌器 (教) pp. 172-175, 199-210	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生体内での内分泌器官の分布と産生ホルモンについてまとめ、これらが階層的に調節されていることを学ぶ。 ・ ホルモン等の生理活性物質について、その分泌や作用様式を整理・理解する。 ・ 甲状腺と膵臓内分泌部の組織像を学ぶ。 ・ 腸管の内分泌細胞の特徴を学び、それらが産生するホルモンの役割を理解する。
第21回7月1日 11:00~11:50 磯川桂太郎	21. 神経組織 (教) pp. 127-133	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神経細胞の形態と神経膠細胞(グリア)の種類、機能的な役割の概要を学ぶ。 ・ 髄鞘(=ミエリン鞘)や神経鞘(=シュワン鞘)の構造と成因を知り、その有無による神経線維の分類や機能的な差異を理解する。 ・ 末梢神経の組織学的構築を理解する。
第22回7月1日 13:00~13:50 白土昌之	22. 泌尿器 (教) pp. 189-195	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腎臓の構造的・機能的単位であるネフロン構成を学び、腎小体の構造をその発生過程から理解する。 ・ 尿細管・集合管系各部の組織像を尿生成のプ

授業日・担当者	講義項目	学習到達目標
		<p>ロセスと関連づけて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 傍糸球体装置の細胞構成や血圧の恒常性維持に果たす役割を理解する。 ・ 泌尿器系臓器の概要を把握する。特に膀胱上皮の組織学的な特徴を理解する。
第23回7月8日 11:00～11:50 磯川桂太郎	23. 感覚器 (教) pp. 135-138, 178-180, 347-349	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感覚器系に属する生体内の組織・構造を分類・整理する。 ・ 嗅上皮および(舌乳頭の)味蕾の組織学的な特徴を具体的に学ぶ。 ・ 触圧覚や深部知覚等に関わる受容器の構造の概要を学び、また、微絨毛が感覚受容性細胞で果たす役割を理解する。
第24回7月8日 13:00～13:50 白土昌之	24. 呼吸器 (教) pp. 177-186	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鼻腔の構造と呼吸部粘膜の組織学的な特徴、副鼻腔の位置・役割を理解する。 ・ 鼻腔から肺、特に気管から肺胞へ至る各部の組織学的特徴を学ぶ。 ・ 血液-空気関門としての肺胞壁の構造を学び、肺胞上皮の種類、形態学的特徴、機能的役割を理解する。
第25回7月15日 11:00～11:50 磯川桂太郎	25. リンパ性器官 (教) pp. 141-146, 350-351	<ul style="list-style-type: none"> ・ リンパ性器官の機能的階層性を学ぶ。 ・ リンパ節の組織構造をリンパの流れに沿って整理し、リンパ節内の細胞の形態的特徴や機能的役割を理解する。 ・ リンパ節がリンパの流路で歩哨的に介在していることを理解する。
第26回7月15日 13:00～13:50 白土昌之	26. 脾臓 (教) pp. 146-148	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脾臓の組織構造を血流に沿って整理し、また、脾洞は特殊な毛細血管であることを学ぶ。 ・ 脾臓に見られる細胞、その形態的特徴や機能的役割を理解する。
<p>なお、前期試験での出題範囲は、別途通知のない限り、第18～26回の講義とする。</p>		